

中間取りまとめに向けた論点整理案



2025年6月19日

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局



(1) 国内外の経済・社会情勢の変化

- 少子高齢化・人口減少の進展、それに伴う構造的な人手不足、地域社会の活力低下
- 世界経済の不確実性
- 国際競争力の低下、イノベーション創出力の鈍化
- 自然災害の激甚化・頻発化 等

(2) 国際秩序と地政学的リスクの変化

- 地政学的リスクの顕在化
- グローバルサウスの台頭
- 先端科学技術を巡る国家間の覇権競争・投資競争の激化
- 国際的なルール形成競争の加速
- 気候変動・感染症対策など地球規模課題への対応の深化 等

(3) 科学技術・イノベーションを巡る潮流

- 基礎研究から社会実装への移行の迅速化、サイエンスとビジネスの近接化
- AI・量子・フュージョン等、ハイインパクトな科学技術の実装
- 各国が科学技術政策を国家安全保障の柱として位置付け、戦略的に推進
- AIと科学の融合、AIの影響を前提とした研究開発
- 国際頭脳循環の強化の必要性
- ディープテック・スタートアップの台頭と、エコシステム形成の重要性
- 研究セキュリティ・インテグリティの確保が不可欠
- 科学技術の「光と影」への認識（急速な技術進展に対する社会的受容とガバナンスの確立）

(1) 目指すべき未来社会像

- Society 5.0「持続可能性と強靱性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ（Well-being）を実現できる」社会を引き続き目指す一方で、その先を見据えて、いかなる未来社会像を描くべきか
- With AI時代に向けて、テクノロジーが国民生活・経済活動の発展の基盤として欠かせない
- Society 5.0の先を見据え、科学技術・イノベーションによる人類の持続的発展への貢献を目指す

(2) 国家の在り方（科学技術創造立国の在り方）

- 科学技術・イノベーションは国力に直結し、総合的な安全保障の確保に不可欠
- 将来を担う若い世代が夢や希望を持てる活力ある国家の実現が必要
- 科学技術・イノベーションの力で、グローバルな社会課題の解決に貢献するとともに、高い国際競争力を保持し、持続的な経済発展を成し遂げ、さらには、国際社会にとって唯一無二の存在となり、同志国などとの連携による国際秩序形成へ貢献できる国を目指し、活力ある国家の実現に貢献していく

○ 科学の再興と技術・イノベーション力の強化

- ・ 基礎研究力を抜本的に強化し、「科学の再興」を目指す
- ・ 戦略的に重要な技術領域を選定、一気通貫で支援し、「技術・イノベーション力」を強化

○ 科学技術・イノベーション政策のガバナンス改革

- ・ CSTIの司令塔機能の強化（例えば、国家として重要な技術領域を選定 等）

○ 国家安全保障も踏まえた科学技術・イノベーション政策への転換

- ・ 経済安全保障との連携強化（自律性・不可欠性の視点、経済安全保障トランスフォーメーション、研究セキュリティ・インテグリティの実装、技術流出防止） 等

○ AIシフトによる研究力の向上

- ・ AI for Scienceによる研究生産性の抜本的向上
- ・ 研究時間の確保

○ 人材の育成・確保

- ・ 博士人材の効果的・効率的な育成、研究マネジメント人材の在り方
- ・ 戦略的な国際頭脳循環の展開 等

○ 大学改革の方向性

○ 成長する大学への集中支援・産学官連携

○ アジア最大のスタートアップ・エコシステムの形成

- ・ グローバル・エコシステムとの連結強化（海外投資家の呼び込み 等）
- ・ スタートアップの創出・成長・グローバル化の推進

○ 地域イノベーションの推進

- ・ スタートアップを創出する地域の形成

○ 国立研究開発法人の役割

- ・ 国家的課題を担う機関としてのミッション再定義 等

○ グローバル戦略・科学技術外交

○ 官民の研究開発投資の確保

- ・ 基盤的経費の在り方
- ・ 民間の研究開発投資の促進
- ・ 民間から大学への寄付の在り方

○ KPI

- 例えば、Top10%論文数の順位の引き上げ、研究開発の生産性（投入したリソースに対する研究活動の成果の効率性）の向上、大学ランキングなど
- EBPM、論文数以外の指標の在り方

○ 基本計画の在り方

- 我が国の将来を担う世代に届く計画
- 世界に対して日本の立ち位置を発信

○ 追加的な論点

- 多様性、包摂性等の考え方や視点
- 科学技術の光と影、テクノロジーの急速な発展に対するガバナンス
- 総合知の在り方
- ジェンダードイノベーション、サイエンスコミュニケーション 等